

事業番号2：我が国循環産業の戦略的国際展開・育成事業 (ビジネスモデル支援)

評価者のコメント (コメントシートに記載されたコメント)

【事業の課題・問題点等】

- ペットボトルや容器包装プラスチックのリサイクルについて、廃棄物行政全体の中での位置付けがわかりにくい。
事業化への見通しが不透明であり、目標設定と目的がリサイクル社会実現という大目的に合っていないのではないか。
- 資源の乏しい我が国においてリサイクルの推進は大変重要である。モデル事業での成果は評価できるが、リサイクルには多様な主体が関与している。したがって、すべてのモデルの技術検証を国が行う必要があるのか、再検討する必要がある。
リサイクルを一層推進するためには、国の役割、その他の主体を明確にし、次のステップへ進むためにも事業の見直しが必要である。
- 本事業の中のビジネスモデル支援は戦略的国際展開につなげるための前段階とのことだが、本事業をどのように国際展開にまでつなげていくのかという「戦略」が見えない。国際展開にまで至らなくとも、国内における循環産業の育成や地域循環システムの構築にいかにつなげていくのかすら見えないのは問題だと考える。
- 事業の意義は大いに認められるが、取り組みに際しての戦略の策定、現状の把握、進捗の管理が不十分であるため、成果の上がり方が不十分なものととどまってしまうと考えられる。
国全体としてのリサイクル率を上げるという目標を達成するうえで、政策の組み立て方(目標の設定、その目標の達成に向けての戦略のあり方)を改善する必要がある。
- ビジネスモデルとして確立できるのか、自立的に事業を展開できる段階に到達したのか、ビジネスモデルとして確立させるなら、目標値が低すぎないか。ビジネスとして拡大するという未来の成果につながるのかが見えにくい。「コストが高すぎて採用されていない」では、ビジネスモデルの育成に失敗しているということ。予算の制約からやむを得ないが、もっと野心的に取り組むべき。
- 事業のアウトカムが不適當である。成果物が不明確で受益者が誰かも不明である。モデルの波及効果について、目標自体が明確でない。抽象的には良い事業だが、具体的成果の広がり不明である。以上を踏まえた事業全体の見直しを行う必要がある。

【改善の手法や事業見直しの方向性】

- リサイクルを後押しする事業毎に工程表をわかりやすくすべき。成果の意味もわか

りやすく示して欲しい。リサイクル定着に向けた努力が必要。

- リサイクルが進まないことには多くの原因・課題がある。この原因の解明をすべて国が行うのではなく、多様な主体の役割分担を明確にする必要がある。国は、多様な主体のネットワーク化ができる手法を構築する必要がある。
- 事業の進捗をよりの確に把握できるような成果目標を検討すべき。「資源効率性」を追及していくということであれば、資源投入量・エネルギー投入量等に加えて、温室効果ガスの削減効果や雇用創出効果なども含めて評価すべき。

関連して、「資源効率的な社会」の実現には長時間を要するものであり、長期的視野に立ったロードマップの策定とアウトカムの設定が求められる。

- 様々な再生資源のリサイクルについて総花的に取り組むよりも、事業化の見通しの立つペットボトル to ペットボトル (B to B) に優先的に予算を配分して重点的に取り組むことがあってもよいのではないか。また、リサイクル率を上げるために地域毎のリサイクル事業の指標を整備すべきではないか。

本事業のうちの「B to B」を、本事業の中で「対策事業を強力に推進」とする評価を打ち出してもよいのではないか。例えば、Car to Car などは休止するなどして、予算を傾斜配分し、ビジネス化へのブレイクスルーのために重点的に取り組むということはどうか。

- ビジネスモデルの確立という視点をもっと強めるべき。その上で、リサイクル率を上げる政策とのパッケージによりオール環境省で取り組んでいくべき事業である。この政策が成功するか否かは、環境省の他の政策とリンクしている。回収率を上げ、回収費用、運送費用を下げる努力とセットでないと成功しない。
- 開発したモデルを活用して行われた事業の数・金額規模を目標とすべき。

評価結果

事業全体の抜本的改善

(事業全体の抜本的改善：6人)

とりまとめコメント

設定されている成果目標が正しいのか、きちんと見直すべき。今のままでは何が事業の成果かわからない。ビジネスモデルを確立するためには、国の役割、自治体、事業者の役割を明確にし、いつまでもモデル事業を続けることにならないよう、事業を見直す必要がある。